

(12) 自動車部品工業

17/16 18/17 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0~▲10%
: 天気図マーク; ◎ ○ ○ 伸び率0~10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成17年度の自動車の販売は前年度比横這いに留まったが、輸出が北米・中近東向けの堅調な拡大により前年度比5.6%増となった結果、国内の自動車生産は前年度比2.6%増の1089万台となり、4連続で1000万台を超える結果となった。

このような状況の中、国内の自動車メーカー向け組み付け部品が全体の需要先の7割強を占める自動車部品工業における平成17年度の国内出荷は、国内自動車生産の堅調な推移に支えられ、前年度出荷額の16兆円を上回る規模になったものと推察される。

(2) 生産・設備稼働

① 生産

経済産業省「機械統計調査」によると、平成17年度の国内の自動車部品生産は対前年度比7.2%増加の8兆699億円と4年連続の増加となった。

② 生産能力・設備稼働率

自動車部品メーカーは、高水準な生産に対応するための設備投資を行っており、設備稼働率は改善していると推察される。

(3) 企業収益

上場自動車部品メーカー84社の平成17年度決算（連結）では、売上高は、日系自動車メーカーを中心にグローバル規模での生産拡大や部品メーカーの積極的な活動の効果と円安等により、12.8%の増収となった。また、利益についても、鉄鋼、銅・アルミ等非鉄金属、原油等原材料価格の高騰、競争激化による部品価格の低下、内外の高水準な生産に対応するための設備投資の拡大による減価償却費や品質コストの増大等の減益要因があったものの、売上高の増加効果に加え、固定費を含めた懸命なコスト低減努力等によって、営業利益は前年度比14.9%増、経常利益は18.0%増となった。しかしながら、平成18年度は原材料価格の高騰や部品購入価格の上昇、高水準な設備投資負担等により伸び率は大幅に低下すると予想している。

(4) 財務

各社とも財務体質の強化に向けた取り組みを行っており、有利子負債は減少傾向で推移している。

2. 設備投資動向

(1) これまでの設備投資の推移

自動車部品工業の平成17年度の設備投資実績見込額は、生産能力増強や設備更

新・維持のための設備投資が好調であったこと等により、前年度に比べ18.6%増の総額6,797億円となった(16年度-17年度共通企業ベース72社)。構成比では、生産能力増強の割合が高く、次いで、更新・維持、研究開発となっている。

(2)平成18年度の設備投資計画

平成18年度の設備投資計画は、総額6,898億円で前年度に比べ5.2%の増加となった(17年度-18年度共通企業ベース70社)。構成比では、生産能力増強、更新・維持、合理化・省力化に係る設備投資の割合が高くなっている。

3. 長期資金調達・運用動向

(1)長期資金運用動向

平成17年度の長期資金運用動向は、設備投資、投融資、短期資金への振り替えが増加している。平成18年度計画においては、短期資金への振り替えを絞り込む一方、設備投資と投融資向けを増加させる傾向が見られる。

(2)長期資金調達動向

平成17年度の長期資金調達動向は、内部資金や借入金により賅う傾向が見られる。平成18年度計画においては、引き続き、内部資金や借入金で賅う傾向が顕著である。

(グラフ1：設備投資の前年比の推移)

